

作り手の苦勞と努力を知る

早来小学校では、5年生の社会科学学習の一環として、「食料生産に従事している人々の工夫や努力を考える」ことを目標に田植え授業を企画。

6月7日6年生も加わり、生産者の方や指導員の方から米作りに携わる苦勞や環境、作業に関する注意点などの説明を受けて作業を開始。

足の裏に感じる泥の感触や直線にならない稲の列に、児童は田植えの難しさを知ったようです。5月30日には、遠浅小学校と追分小学校でも恒例の田植えを実施。地域文化の継承や地産地消への理解を深める取り組みに力を入れています。



カンロの出荷

味瓜（あじうり）と表現したほうが懐かしくなじみのあるものと感じる方も多いと思いますが、追分地区で40年以上前から栽培を続けているカンロ（甘露）の初出荷を6月8日JAとまこまい広域追分カンロ部会が行いました。

大雪などの苦勞はあったものの、2月からハウスで育てたカンロの生育は糖度も高く実も大きく、翌日札幌市中央卸売市場での初競りでも良い滑り出しとなりました。

出荷は9月末まで続く予定となっていて去年並みの売り上げを目指しています。

黄金色の花畑から

安平町産の安全・安心な食品を目指し、2年前から「畑のしずく」として販売を始めた北のなのはな会から、なたね油60箱を町内の学校給食センターと福祉施設9箇所へ寄贈していただきました。

6月11日教育長へ渡された20箱（12本入り）は学校給食に使われる予定ですが、「地元で取れた安全な油を子ども達に味わってもらい、その良さを感じてほしい」と同会小西会長から寄贈の思いを伝えられました。

学校給食では、既に利用されており、今後は献立表にも記載して子ども達に安全な食品を感じてもらいます。



北緯42度46分の輪

安平町と同緯度に位置する世界17か国の木や花を瑞穂ダム公園に植栽する「瑞穂ダム植樹祭」が実施されました。

17日はあいにくの雨となりましたが本年度は100名を越える参加者に加え、コソボ共和国のサミ・ウケリ特命全権大使が東京から参加し、植栽木の「ギンバヤナギ」の花壇に友好の証として町長らとサクラの植樹を行いました。

歓迎セレモニーでは、参加者の駒沢大学留学生らが作ったタイカレーでもてなされ、国際色を感じる交流の内容となりました。

風通し良く、快適な夏に

6月25日安平町シルバー人材センターの皆さんが、安平町デイサービスセンター周辺の草刈りを実施。毎年同センターの夏祭りが近くなるこの時期にボランティアで活動しています。

生い茂った草や樹木の枝が払い落とされ風通しが良くなることで、入所者の健康管理にも一役かっています。

